**アンケートピックアップ**

**6月19日　株式会社CURIO　SCHOOL　代表取締役　西山　恵太　氏**

**問１ 学んだこと、印象に残った言葉、講師へのメッセージ**

卵を四角にする、という話を聞いて、確かに固定概念は小学生などの小さいころの経験からすぐに作られてしまうんだと感じました。ランドセルチャレンジの画像を見ると、肩のところに車輪がついていたりととても自由で、すごく素敵だなと思いました。そういったアイデアを考える機会やどんなアイデアも否定されず肯定してもらえる環境が小学生の頃にあるのとないのとでは、その子どもの考え方そのものが全く違うと思います。自分が思いついたことを臆せず言えることが何より大事なのだと思います。創造力そのものは、眠ってしまっているだけで誰もが持っているはずだと思いました。（経済学部　1年）

モノコトの映像の中で、ある少年が「人生の中で一番失敗できた」と言っていた。人は、成功するためには、多くの失敗を経験しなければいけないと思う。しかし、今の社会では、失敗が許される場所が少ない。このような取り組みは「多くの失敗を経験する場」としてすばらしいと思った。思いつく→自分でやってみる→ほかの人に言うや→協力してもらう→本当にできるようになる。この一連の流れを意識していくことが大切だということが分かった。（経営学部　経営学科　１年）

「ＡＴＯＭＯＳ」のプレゼンでの映像はとても素晴らしく、高校生が作ったとは思えないものだった。大学生や社会人になってから初めて行動を起こす人は多くいるが、もともと持っているクリエイティビティを生かして年齢に関係なく表に発信していけるよな環境作りも大事だと思った。「失敗することよりも挑戦しないことのほうがリスクである」という言葉はよく聞くものだが、今日の講義の中で改めて聞いたら、より重みのある言葉に思えた。逆に、大企業では得られるものが少ないという固定概念があるように思えたので、そのような場でもできることがあると証明したい。（経営学部　１年）

困ったことに直面した時、アイデアが浮かぶという説明に納得しました。技術の革命も生活の不便さを解決するために生まれたものが多いと思います。あるCMで「人が想像できることは、人が実現できる」というフレーズがあり、正直疑っていました。想像力は無限だが人のできることには限りがあると思ってしまいます。ですが、今回の講義を聞き、コンパスの進化や未来の文房具を想像してみたところ、これまでの数々の革新を生み出してきた人間なら、可能なのかなと思うようになりました。「企業は別に社員が多くなくても良く、柔軟に動ける。」という話に納得しました。少しずれるかもしれませんが、大学の講義も大教室よりも少教室の方が教授とのコミュニケーションが増え、自分も積極的に参加しやすいです。大企業を目指す学生は多いと思いますが、少数精鋭の企業も魅力的だと思います。（経営学部　１年）

とりあえず「飛び込め！」ということを忘れずに行動したいと思いました。今でも自分で何かを作り出すことはできるのだろうけれど、学生起業家が0.03％しかいないのは、言い訳をして飛び込む人が少ないからなのだろうと思いました。自分から何か行動を起こせるようにしようと思います。（経営学部　1年）

小・中学生時代に西山さんの講義を受けたかったなと思いました。ですが、大学１年生で学校に慣れてきて中だるみしてきた時期にこの講義を聞くことができてよかったです。自分のやりたいと思ったことは、周りに合わせて妥協したり押し殺したりするのではなく、積極的に行って発信していきたいなと思いました。大学に入って以前より自由な時間が増えたため、もっと想像力をはぐくむためのアイデアを考える機会を増やしていきたいです。私は大学の宿題をこなし良い成績をとれればいいや、とどこかで考えてしまっていたため、「何もしないことのほうがリスク」という言葉が特に印象に残りました。もっと自分の興味があることを追求していきたいと思いました。起業をすることで自分の存在を認識し、自分の軸を定められると知り起業に興味がわいてきました。また、経営学とデザインを学ばれたと知り、異なった分野の学問を掛け合わせることで自分の強みが広がり想像力が豊かになるのだなと思いました。私もまた違った分野と経営学をつなげて考えていきたいなと思いました。（経営学部　１年）

私は、大学の授業で企画提案型の授業を履修しています。５～６人１組のグループになって、企業が実際に抱える問題を解決するために企画を提案するという内容です。しかし、グループ内で会議をして、思いついたアイデアを共有するということになったとき、私はいつも全くアイデアを思いつくことができません。これは、ずっと悩んでいることで、「想像力や発想力というのは、才能なのか経験なのか」ということです。アイデアをポンポン出してくれる人や、今問題となっている部分を的確に指摘してくれる人がグループにいて、そういう人を見ていると、いつも「自分はダメだ。」と思ってしまっていました。でも、今日の講義の中で「２０５０年に使われているだろう文房具を考えるよう」というワークショップをして、思いついた文房具に価値があるかどうかはわからないけれど、「アイデアを思いつけた」ということが本当にうれしくて、「自分はダメだ。」から「自分にもできるのかもしれない。」と思えるようになれました。（経営学部　１年）

教育に関わるお話を聞けて、教育学部の私にとってとても興味深い講義でした。新学習指導要領でも、高い課題解決能力や変化の激しい社会を生き抜く力を育てることが示されていますが、今回の講義を聞いて、さかんに「生き抜く力」と叫ばれている理由がわかりました。将来多くの仕事がAIに取って代わられる中、AIでは代わることができない人間独自の協調性、創造性などの能力をのばすことが求められています。それなのに、（今回の講義で初めて知り驚いたのですが）日本の中高生で「自分は創造力がある」と思っている子は8％しかいません。だからこそ、「創造性のある授業」を行うことや「創造力」を育成することが、今こんなに求められているのだなと思いました。（教育人間科学部　音楽学科　4年）

**問２ 今後のアクションにつなげていきたいこと**

新文房具を考えているときに、傘なら今まで変わったところもないし、色々改善する余地があるのではないかと思いました。未来予言書ノートに1度まとめてみようと思います。(経済学部　1年)

考えるべきタイミングで、しっかりと集中して考える能力というのが中高生は長けているのではないかと思ったので、自分は大学生ですが、もう一度中高生のときのことを思い出し、今の年齢であれ出来るようにしようと思いました。(理工学部　電子情報系学科　1年)

私は「思いつく」ことはよくあるので、簡単なことからでも「まずはやってみる」という段階に移してみようかなと思いました。今はアルバイトをしていないので、夏休みに何かに挑戦して自身を成長させたいです。(経済学部　1年)

いちばん最後のスライドにあった「飛び込め！」というのがとても心に響きました。西山さんがおっしゃっていた通り、私も様々なリスクを怖がって今なにもできていないということに気づきました。また、論理的プロセスを添えた解説によって、私が恐れるリスクは実はリスクゼロなのだなと、そのようにとらえることもできるなと勉強になりました。今日のリスクゼロ理論は、お金や周囲の目の心配以外にも適用できると思うので、何かに悩んだときにこの考え方を活用したいです。（経営学部　１年）

半径３メートルを変えるという志が自分の考え方に合っていると感じた。頭にすっと入ってきたのでこの言葉を頭の隅においておいて、いつか役に立たせることができると思った。（経済学部　1年）

**授業スタッフの感想**

明確な目標を持ちすぎると目の前のことに全力で取り組めなくなるかもしれないという言葉がとても印象に残った。私は公認会計士試験に合格するという明確な目標を持っています。しかし最近それを成し遂げるために大学でのチャンスつぶしてしまっているのではないかと感じることが多くあります。明確な目標は正しいと思ってしか生活してこなかったので西山さんの言葉で視野が広がりました。目標を成し遂げるための努力は止めませんが、柔軟になって何かに固執しないようにしたいです。

アンケート用紙の裏面の、みんなのアイデアを読むのが面白かった。あんな短時間だったのに結構みんな思いついていて、本当にトレーニングする機会さえ作れば大学生の創造力はもっと培われると思った。みんなのアイデアを読みながら、それぞれの製品の改善点をたくさん思いついたので、アイデアを共有することの意味が分かった気がした。

モノコトプロジェクトの動画で想像力豊かに創造している中高生たちを見て、俺たちも負けてられないと高ぶったと同時に、彼ら・彼女らの能力を上手く引き出すことによる未来の可能性を感じて鳥肌が立った。みんなの未来の文房具の案を見ても、多くの人が鉛筆・消しゴム・紙と似通った、それもずば抜けてイノベイティブな訳でもないものだったので、やはり自分も含めてみんな頭が固まっちゃったのだなと感じた。私も昔は想像力豊かで良い意味でメチャクチャだった（と自負している）のですが、中学・高校と進んでいくにつれて明らかにかたい思考になってしまった。それが嫌で、今は普段のちょっとしたことを大切にして、それを起点にいろいろな発想を試みているところです。特に、西山さん自身の０→１フェーズも教えていただいたので、これもまた参考にさっそく実行していきます。

　また、西山さんの楽観的過ぎるところを見習って、本当にどんなことでも（大失敗でも）前向きに考えて明るく生きていきます。そのマインドセットができていれば、それこそ色んなことにどんどん飛び込んでいけると思うので、大切な指標の一つにしていきます。

今回の講義は私が興味を持っている教育関係、特に小・中・高をターゲットにした事業だったため大変参考になると同時に刺激を受けた。また、事業がWSを通したものだと知って、自分の所属しているサークルでやっていることと同じだと思った。そのため９月頃から募集されるインターンに是非参加したい。そしてWSの構成を一から学んで、ファシリテーターのスキルを磨きたいと思う。

**＊授業内ワーク　未来の文房具を考える**

・呼んだら返事をする：家ではない場所とかで持ち主から距離が離れすぎると警告音(経営学部　１年)

・定規を使わなくても、直線がかけるシャーペン(経営学部経営学科1年)

・手が汚れないノート

強力な速乾性と吸収性を兼ね備えたノート。このノートならインクや鉛筆で書いた後に手で覆っても字がかすれることはない。

・全色ペン

概要：ペンの側面に１２色相環付きの調節レバーが付いていて、ちょっとずつ色を調節できる。また、ペン先も自由に取り換え可能で、筆タイプなどバリエーション豊富。

解決できる困りごと：「イラストを描くときに思い通りに色が出ない。」（デジタルイラストの自由な色選びがアナログでもできたらいいな！）→色を混ぜる必要性がなくなる。絵の具の無駄をなくすことが出来る。（経営学部　１年）

・KATANOTE

説明：ノートのページを軽くたたくと、まるで下敷きが入っているかのように硬くなる。

進化している所：いちいち下敷きを敷かなくても良くなる

・Air pen 空気中に文字が書ける。紙がなくても大丈夫。

・「瞬消」

説明：1回軽くこするだけで消せる消しゴム。形は一般的だが、摩擦力はすごい。顕微鏡で見ると従来のモノよりデコボコしている。進化しているところ：楽に消せる、素早く消せる　　　　（経営学部　1年）

・　完全犯罪消しゴム

説明　消しかすが出ない消しゴム

進化　消しかすが出ないので机が汚くなくなったり筆箱にごみがたまるのを軽減できる。

・貼レルンです

説明　表も裏もつるつるしていて指には張り付かないけど、はりたいところ(紙や壁)には貼れるようなセロハンテープやガムテープ　進化：指紋がつかない、粘着力が落ちない

・手につかないのり　のりをつけると紙だけに反応してくっつく。間違えて手についてしまっても手にくっついて汚れたりしない。（経営学部　経営学科　１年）

・汚れないシャー芯　シャープペンシルの芯自体は白いが、紙に書くと黒になる。芯の詰め替え時に手が汚れない。

その他の意見→そもそも２０５０年に文房具は存在しないと思う。すべての情報伝達はネット上になるから書く必要がなくなる。カッター等もなくなる。段ボール箱を開けるときはタッチIDで開けるようになる。